日刊CARGO 物流総合紙
Daily CARGO Transport & Logistics News
2011年(平成23年)
1月27日
木曜日
第10089号
月曜～金曜発行（祝日を除く）
購読料：1カ月8,400円(税込)
(昭和44年9月30日 第三種郵便物認可)
http://www.daily-cargo.com/

展望台

コンテナ写真家に助太刀を

「コンテナターミナルを自宅に構築したい」。港湾好きが極限まで高じると、こう考えるようになるという。世界中を巡るコンテナがロマンを駆り立てる。巨大構造物であるガントリークレーンに非日常を見る。荷役風景こそ最上の癒し。そんな港湾マニアとも呼べる人々の間ではかねて、埠頭全体をジオラマで再現したいとの需要が高まっていた。

彼らの夢が現実になる日が近づく。国内外の船社のコンテナとトレーラートラックを150分の1のNゲージサイズの模型で再現した「ザ・トレーラー・コレクション」が人気のトミーテックが今春、シリーズ初の荷役機器として、トップリフターを商品化するからだ。同社の企画担当者は「埠頭全体のジオラマ化」を求めるファンの熱い声を聞き、一昨年半ばから、トップリフターをラインナップに加える構想を練ってきた。

「トップリフターとは素晴らし過ぎます。既にリーチスタッカー（マルカ社製、ザ・建機第3弾）は持っていましたが、コンテナをうまく固定できず、室内での港湾荷役（?）に苦労していました（笑）。トップリフターが発売されるなら、CY作業も安心。バンプールでコンテナを山積みできるほど、トレーラー・コレクションを買わないといけませんね（笑）」。港湾マニアの急先鋒、ロジラテジーの延嘉隆代表取締役は、トップリフター商品化の報に喜びのコメントを寄せる。

ロジラテジーで物流コンサルティングを手がける延氏は、本業とは別にライフワークを持つ。「コンテナ写真家、港湾写真家」としての活動だ。本気かどうかは説明不要。「〝延嘉隆〟の海上コンテナ写真集」(http://container-gallery.jp/)を見れば分かる。今後はコンテナ、港の風景に加え、港湾荷役、港湾で働く人々にレンズを向けたいという。「私はものすごく格好良いと思って撮っている。港湾の素晴らしさを、物流業界以外の人たちにも伝えていきたい」と語る氏。だが、個人サイトであるが故、船社への撮影許可、サイトへの掲載許可の取得が困難、という壁に直面する。これまで寛大にも撮影に応じたのは、日本郵船、OOCL、宇徳の3社とか。船社各位。氏の写真集への協力は、物流業界の認知度向上への小さな一歩かもしれません。（松下優介）

logirategy